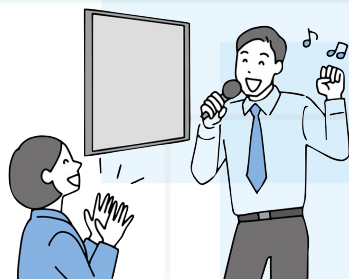


一芸に秀でる

「一芸に秀でる」プロの芸人、芸術家の話ではありません。

いささか仕事とはかけ離れている話ではないかと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、私が30代前半のころ、このことを上司から云われとても印象に残っております。

「一芸に秀でる」ということは、磨きがかかることで仕事にも好影響を及ぼすことになり、更に仕事と深く繋がっていくことになると思っています。



「一芸に秀でる」とは、私たちは大なり小なり趣味や特技を持っていて、それに磨きをかけてこうという話です。私自身も写真、ゴルフ、映画・絵画鑑賞、サスペンスドラマ、野球観戦(巨人ファン)、カラオケ、旅行等たくさんの趣味をもち、また私の周りにも様々な趣味や特技を持った人たちが現役時代から沢山います。

野鳥撮影、フラダンス、オカリナ、三味線、ウクレレ、カンツオーネ、民謡、水彩画、日本画、切り絵、ちぎり絵、陶芸、書道、似顔絵描き、仏像彫刻、日曜大工、ゴルフ、ドライブ、サイクリング、山歩き、マラソン、卓球等々、それらを究めている方はとても輝いて見え、仕事にも自信を持っているように思います。

好きな得意な趣味をもっていると、仕事のオン、オフが上手く切り替えられて、仕事もスムーズに流れているのではないのでしょうか。仕事上やプライベートのモヤモヤや悩み事が払しょくされたり、仕事上でお付き合いする様々な方と仕事オンリーの会話にとどまらず、時に触れる趣味の話で良いコミュニケーションがとれたり、同じ趣味をもっていることがきっかけになり物事がうまく運び良い方向へ展開することもあります。

あの人は「一芸に秀でている」と思われるぐらい趣味や特技を磨き、目に見える形にすることが大事かと考えています。磨くということは、それらの会や倶楽部に入り切磋琢磨する、会のなかで表現する、展覧会に出展する、賞をとる、段位をとる、教えられる人になるなどでしょうか。

すると、その人の得意なことが目に見えて、知れ渡ってくるようになり、いろいろな情報が入ってくるようになります。例えば写真ですと、展覧会の案内情報が入ってきたり、会に出展しないか、どこそこにこんな会があるよ、〇〇写真館に投稿してよ、挿入写真に使わせてよ、誰それも同じ趣味だよとか、仕事やコミュニケーションの輪が広がり、様々な方の作品を見ることで磨かれ、腕が上がり先に述べたような良いことが起こってくるのではないのでしょうか。



私自身も趣味の写真により、美術展に出展や個展を開催したり、写真仲間ができたり、最近では他者のSNSにアップしてもらったりと、人の輪がどんどん広がっています。



長嶺 堅二郎